

大潟村におけるアリスイの基礎的な繁殖生態

○加藤貴大(立教大・理)・土橋亮太(立教大・理)・三上かつら(バードリサーチ)・上田恵介(立教大・理)

アリスイはヨーロッパ、アフリカ、そして日本北部で繁殖するキツツキ科の鳥である。首を振じるような対捕食者行動を持ち、また餌であるアリを捕食するための長い舌を持つなど、興味深い生態的特徴を持つ。それにも関わらず、日本におけるアリスイの繁殖生態についての研究報告は数例に留まり、不明な点が非常に多いのが現状である。

本研究では巣箱において繁殖したアリスイの一腹卵数や雛数、育雛期間などを観察し、日本国内に生息するアリスイの基礎的な繁殖生態を明らかにすることを目的として、調査を行った。

調査は、日本国内に生息するアリスイの繁殖地の一つである秋田県大潟村で行った。村内には比較的高い密度でアリスイが生息しており、防風林に40の巣箱を設置した結果、そのうち14の巣箱がアリスイに利用された。我々は基本的な繁殖生態として、卵の産卵順・一腹卵数・卵サイズ・抱卵期間・おおまかな孵化順・育雛期間を観察した。さらに親個体を捕獲してカラーリングを付け、巣箱外からのビデオ撮影により抱卵期間と育雛期間の観察を行った。

7/13日の時点で、巣箱観察から最も早いつがいの産卵は5/22から始まり、一腹卵数は $9.5 \pm 1.4SD$ 個 [7-12, n=14]、抱卵期間は $9.1 \pm 1.3SD$ 日 [8-12, n=10]、雛数は 7.9 ± 1.7 羽 [5-10, n=8]、育雛期間は 22.8 ± 1.0 日 [22-24, n=4]であった。卵サイズは後に産まれたほうが大きくなる傾向があり、孵化順は概ね産卵順で、2~3日の非同時孵化をすることが分かった。さらにビデオ観察から、異なる2巣の間を行き来し、両方の巣の雛に給餌する個体がいることが分かった。このことからアリスイにおける一夫二妻の存在が示唆された。

この調査には、バードリサーチ調査研究支援プロジェクトの支援をいただきました。